

○日常生活

・入国審査

南ドイツのテロなどをきっかけにして入国審査は非常に厳しくなっていた。

私は学生ビザをドイツ国内で取得予定であり入国時は持っていなかったため、行先や目的、大学名などをくわしく聞かれた。**Admission offer** の書類を見せ、何度も根気よく説明する必要があった。関西国際空港の職員の方もおっしゃっていたが、可能であれば国内で学生ビザを取得しておく方がスムーズに入国できる。

・ビザ

オリエンテーションプログラムにおいて、銀行口座の開設、公共料金の支払い方法の説明、また学生証の発行などは手厚く手伝ってもらえるが、ビザは自分で何とかしなくてはいけない。(必要な書類の確認は **Tutor** の方に手伝ってもらえる)

自分が国内で入っていく保険をよく確認しておくことが必要。ビザ取得の際に、日本の保険だけでも条件を満たす場合と満たさない場合があるため注意。

・バス

基本的に乗り方は日本と同じ。しかし、乗車前に必ず運転手に券を買い求める必要がある。(そうでないと乗車できないつくりになっている)

購入時には「Bis~(目的地)」といえばよい。4回の回数券やグループチケット(5人で12Euro)などもある。人数によってはそちらの方が安く済む場合もあるので考えて買うべきである。ちなみにトリア大学の学生は、学生証を提示するだけでバスに乗ることができる。留学生も2週間ほどで学生証を受け取ることができるが、それまではバスカードが支給されるため、実際に券を買い求めてバスに乗ったのは入国初日とその後2日くらいである。

・気候

非常に乾燥している。島根とは違い室内に干していても洗濯物が一日で乾き、カビも生えにくいことはうれしいことだが、肌が弱い人は気を付けるべき。一か月前に先に到着していた日本人留学生は「肌から粉が吹いたような状態」になったといていた。

その分ドイツは化粧品が日本よりはるかに安く、量も日本の倍入っているため驚くと同時にありがたい。

・スーパー

一番慣れるのに時間がかかり、かつ驚いた場所である。

まず、出入り口が完全に分けられており、出口から入ることはできない。たいていの店に島根大学の図書館の入り口にあるようなストッパーが設けられている。(盗難防止のため)会計の時は、レジの前のベルトコンベアに商品をすべて出し、自分の番を待つ。そして会計が済んだら速やかに商品を袋に詰める。(この際レジ打ちの人へ「Hallo」と「Tschus」

と言うこと忘れない、人によって違うがだいたい「Schones abent.」（よい夜を）などと返してくれる。）

それからレジ袋なるものは存在しないため、自分で何か袋を持参する、もしくは店内でエコバックを買うことが必要。（大量に購入した商品を車に直接積んでいる人も良く見かける）

日本ではありえないことだが現地の人は一度棚から持ち出した商品をもとの場所に返さない。よく洗剤のコーナーにヨーグルトが置かれていたり、ブルストの山の中からチーズが現れたりする。また、バナナやトマトなどはほしい分だけ房から取っても怒られない。

○大学生生活

・unterricht（授業）

まだオリエンテーションの最中なので講義は受けていないが、月曜日から金曜日までの午前中は能力別のクラスに分かれて語学の授業と、午後からは手続きやそれぞれの専攻についての説明会などを受けている。

・留学生

本当に様々な国から留学生が来ている。しかし、一番人数が多いのはイタリア、そしてトルコである。特にイタリア出身の学生は、上の方のクラスに入っている人が多い。私の友人のイタリア人も中学生のころからドイツ語を勉強しているため流暢に話せるくらいであった。

・図書館

ラインラント・プファルツ州で一番大きい図書館がトリア大の図書館である。非常に大きく、蔵書量も多い。そして、平日は24:00まで開館していて、勉強するには最適の場所である。ただし入館するときは、PC・テキスト・文房具・水以外の持ち込みは許されていないため、他のものは入り口横のロッカーにしまってから入る。



Porta Nigra